

平成 30 年 11 月

語り部：平岡 恵行

歴史を知ることによって、自分が今どうあるべきかという参考になると思うので、今日は私が体験してきた戦争時代の話を通じて人間はどうして戦争をしてきたのか、してはいけないことをどうしてしたのかをということを考えてほしいと思う。

昭和 12 年、私が小学校 5 年生の時に戦争が始まった。そのとき、日本はアメリカやイギリスやフランスが植民地を広げたのをみて日本も植民地を増やそうとし、朝鮮、満州を占領していった。戦争を始める口実として、中国が日本の満州鉄道を壊したということで満州事変をきっかけに戦争を始めた。

当時は、戦争は悪いことではないという教育しかされず私は戦争の怖さを知らなかった。どんどん戦況はひどく軍国主義になっていき、20 才になったら「赤紙」という軍の召集令状が届き兵隊にならなければならないという社会だった。戦況がひどくなり、兵隊さんがどんどん亡くなり、人が足りなくなっていくので 19 才、18 才と召集令状が届く年齢がどんどん若くなっていった。

私が大阪の大学に行っていた時が昭和 19 年でその時、私の友達も赤紙が届き二等兵として出兵した。高校生の時は松山に住んでいたのですが、その頃は、ごはんを沢山食べていたが、だんだんお米や食料がなくなって食べるものもなく、いつもおなかすいていた。

大学生も勤労学徒で工場へ行って飛行機を作ったり、軍艦を作ったりしていた。私も 19 才で軍艦を作る工場に勤労学徒として動員されたが、昭和 20 年 3 月 14 日に大阪で空襲があり B29 という大きなアメリカの戦闘機が爆弾と焼夷弾を落としてきた。私が働いていた軍事工場の寮で花火のように大量に落ちてきた焼夷弾をみたのを覚えている。

焼夷弾で大阪中の家が燃えていた。大阪は焼け野原になった。

街中が空襲にあったため、空襲後勤労学徒を終えて大学に戻るようになった。大学に帰る途中に乗っていた電車が機銃掃射にあい、自分が乗っていた一つ前の車両がグラマン戦闘機に攻撃された。乗っていた 7 人が即死、十数名が大けがをし、無差別に人々が狙われ、殺された。

その後、飛行機の軍事工場に勤労学徒として動員された。その頃はみんな勉強などする時間は与えられず国のために働かなければならなかった。私も機関銃やゼロ戦や紫電改という飛行機を作った。そこに、また米軍の B29 という戦闘機がやってきて、大量の爆弾を落とされた。工場の隅々まで爆弾を落とすまでいった。空襲警報がでて逃げていたところ、友達が忘れ物をして工場に戻ってしまい爆弾によって亡くなってしまった。爆弾の爆風によって飛んできた石や瓦から身を守るのに必死だった。

そんな状況であったため、日本は滅びてしまうのではないかと恐ろしく思っていた。

その後、久留米の陸軍士官学校を受験したら合格したので、昭和 20 年 8 月 7 日の入学式のため大阪を離れることになった。母親に入学式に遅れたらいけないので早めに出るこ

とを勧められ、予定より1日早い8月4日に出発した。途中岡山でグラマンの機銃掃射にあった。5日の朝、広島を出て久留米に着いた。8月6日の朝に原爆投下されていたので、1日遅かったら原爆の被害にあっていたかもしれない。

私の妻は、広島の日市に住んでいて妻の父親は放射能を浴びたため長生きできなかった。原子爆弾は、世界中が造ろうとしているけど広島のような悲惨なことになる怖さを知っておくべきだ。

広島や長崎への原爆投下、ここ松山も焼け野原になってしまい戦争は怖い、絶対にしてはいけない。お互いに助け合っていくべきだ。

大事なことは、私たちが歴史を知らなければならないということ。過去にあったことを正しく知ったうえで同じ失敗を繰り返さないことが大切だ。

本当のことをきちんと勉強していくことで、世界はきっと平和になると思う。